

2012 年度報告書（研究員）

氏 名	知念 奈美子
職 位	研究員
<p>研究概要</p> <p>本研究の目的は、①ホームレス支援現場において、支援の出発地点であるアセスメントの簡便かつ包括的なツールを開発・使用し、標準化を図ることと、②そのツールを利用して得た情報をもとに地域の社会資源へと効率的につないでいく支援プログラムの流れをモデル化し、③ツール使用のノウハウの普及とともに支援団体間の連携ネットワークを拡大することである。</p> <p>日本におけるホームレス支援は近年の当該問題の増加と多様化によって、漸く本格化の端緒に立ったといえるが、マクロレベルの政策研究等が多く、ミクロ視点のアセスメント手法研究は皆無に等しい状態が続いている。マクロ視点から策定された利用価値の高い制度やサービスの効果を高めるには、支援の入口でアセスメントを適切に実施し、得られた情報を関係者間で確実に共有する必要がある。そこで記入や情報のレビューが簡便でありながら、クライアントの生活を包括的にアセスメント可能なツールである CCH-COS 修正日本語版をホームレス支援団体であるビッグイシュー日本の現場スタッフと協働開発した。</p> <p>修正日本語版の開発過程において、ツールの使用には部分的に専門知識が必要であることが明らかとなり、アセスメント実施者のための記入マニュアルとトレーニングプログラムを開発・実施した。当該ツールを使用した業務のルーティン化を並行して行いながら改良点を加える参加型アクションリサーチの手法が適用された。同時に、地域の社会資源をホームレス支援団体に限らず、広義のホームレス者に多い 20～30 代の若者向け支援団体を含め柔軟な視点で掘り起し、互いの事業や可能性をすり合わせながら連携・ネットワーク化を図り、支援の道筋を整える支援プログラムを整理・構築する作業も実施した。</p>	
<p>業績リスト（著書、論文、報告、その他に分けて主要なものを記入する）</p> <p>論文</p> <p>知念奈美子「ホームレス保健医療福祉包括的アセスメントツールの開発過程—CCH Consumer Outcome Scales 修正日本語版のビッグイシュー大阪販売者における信頼性・妥当性の検討—」『医療社会福祉研究』vol.20、37-50、2012.</p> <p>報告</p> <p>知念奈美子「ホームレス保健医療福祉包括的アセスメント記入マニュアルおよびトレーニングプログラムの開発的研究」第 22 回日本医療社会福祉学会大会、同志社大学今出川キャンパス、2012 年 9 月.</p> <p>知念奈美子「ビッグイシューにおけるホームレス包括的アセスメント記入マニュアルおよびトレーニングプログラムの開発的研究」日本社会福祉学会第 60 回秋季大会、関西学院大学上ヶ原キャンパス、2012 年 10 月.</p>	

